

平成23年度 大田区立相生小学校経営計画

校長 菅原 清

【相生小学校の教育目標】

- ・明るく健康な子 ・深く考える子 ・心豊かでやさしい子 ・力を合わせて働く子
- 本年度は「深く考える子」を重点とする。

1. 目指す学校像（教育目標とのかかわり）

○学力・心・身体がバランスよく成長している健康な子どもが育つ学校

- ・子どもたちが基礎・基本の学力を着実に身に付けることができる学校【深く考える子】
- ・子どもたちが温かい人間関係を築き、心身ともに安心して生活することができる学校【心豊かでやさしい子】
- ・子どもたちが基本的な生活習慣を身に付け、健康で生き生きと活動できる学校【明るく健康な子】【力を合わせて働く子】

2. 本校の現状と課題

現状

- ・児童は明るく健康で活発に生活している。学習面においては、基礎・基本の学力の定着に努力を要する児童も少なくない。
- ・地域の学校としての地元の期待が大きい。
- ・保護者の就労率が高まりつつあり、働きに出ていることが多いことから、学校と家庭との緊密な連絡や児童の生活に十分目を行き届かせることが難しい状況も見られるようになってきている。また国際化が進む大田区にあって、日本語を十分に理解できない保護者が存在するようになっており、連絡の工夫を行ってはいるが、学校と家庭との連絡を十分に取ることが難しい状況も出てきている。

課題

- ・基礎・基本の学力（読む・書く・計算する等）の向上
- ・子どもたちの基本的な生活習慣の確立
- ・家庭・地域と連携した教育の推進

3. 具体的な方策

◆学習プロジェクト

①学力の向上

- ・朝の学習（モジュール・20分間）の時間を週2回（国語・算数）設定し、ゆとりある授業時数を確保し、学習内容の定着に努める。
- ・本校独自にフォローアップタイムやホームワークを実施し、全教員が少人数グループでの指導に取り組む時間を設定したり、学年毎に統一した宿題を課し、その後の指導を学校で統一し徹底したりすることで、基礎・基本の学力の向上や学習態度の定着を図る。
- ・放課後や昼休み、土曜日（6回）に学習指導講師がプリントを活用して行う補習教室を実施するとともに、土曜日には教員による補習教室や全学年の児童を対象とした自習教室も設定し、基礎・基本の学力の向上を図る。
- ・全学年で算数習熟度別少人数指導を通して個に応じた学習を推進するとともに、数学的な考え方の基礎を中心とした考える力と解決する意欲の育成を進める。
- ・朝の会等にスピーチ活動を積極的に取り入れるとともに、スピーチ週間やスピーチ大会の実施を通して、表現力の育成に努める。
- ・学校図書館の有効活用を図るため、放課後、土曜日、長期休業中の開館を行う。また朝の「読書タイム」を中心として、読書の習慣化を図るとともに、ボランティアによる読み聞かせ活動を通して、児童の興味・関心を高め読書量を向上させる。
- ・校内掲示の工夫により、学習意欲を高める環境作りに努める。

※校内研修を通して、ICT活用力も含めた授業力の向上を図る。学校課題の解決につながる実践的な研究・研修を行うとともに、教員個々の課題を明確にし、OJTによる研修をあわせて推進する。（校内研、OJT研、初任研、2、3年次研、4年次研、教育実習等あらゆる場を研修の場ととらえる）特に、新教育課程実施の初年に当たるため、5、6年生の外国語活動と新たな内容が加わった理科について、確実な実施のために研修を進める。

②かかわる力の育成

- ・縦割り班遊びや縦割り給食の実施等を通して、異学年交流の一層の充実を図る。
- ・朝の校庭開放・中休み・昼休み（30分）、放課後遊び・放課後の校庭開放等の遊びを通じた人間関係作りを推進する。また、水曜朝は元気アップタイムを設定し、朝の活動の時間に教員も共に遊び・運動をする時間とすることで、児童同士や児童と教員とのふれあいの時間を確保する。

- ③ 幼保・小・中連携教育の推進
- ・御園中・道塚小との連携を推進し、授業公開や情報交換を通して、学習内容や指導法、また生活指導における指導方針等について、一貫性・系統性をもたせ滑らかな接続ができるようにする。
 - ・近隣幼稚園・保育園と学校行事を中心に連携を深めるとともに、共通単元での学習計画を立て実践することを通して、幼保小の滑らかな接続ができるように努める。
- ④ 保護者・地域および関係諸機関と連携した教育の推進
- ・学校公開日や道徳授業地区公開講座を休日や週休日に行うことにより、地域・保護者との相互理解・信頼を育み、授業への参画等も含め、連携した教育の推進に努める。
 - ・教育内容の説明会や報告会の開催、学校だよりやホームページ等による教育内容の積極的な情報発信により、保護者や地域から学校の教育活動に対する理解と協力を得られるようにする。
 - ・地域の教育力の積極的な活用を図る。そのため、授業でのゲストティーチャーやボランティアに地域・保護者人材を開拓し活用するとともに、人材リスト作りを進め、地域とともに子どもを育てる学校の仕組みづくりを推進する。
- ◆健康プロジェクト
- ① 健康・生活リズム作り
- ・朝の校庭開放と元気アップタイムの実施により、児童の頭と身体の日覚めを促すとともに、生活リズムを考えた時程により、生き生きと生活・学習できるようにする。
 - ・保健指導の充実を図る。（歯の健康 からだの学習 食育 薬物乱用防止 等）
 - ・「早寝・早起き・朝ごはん月間」では、元気アップタイムを活用した児童のスポーツイベントや保護者アンケート等を通して、基本的な生活習慣定着への児童・保護者の意識の向上を図る。
 - ・年間計画に基づいて食育を推進し、健全な食生活を送る素地を育てる。
 - ・食育・保健指導等の健康教育の実践内容を、健康教育発表会として発表することを通して児童相互に学び合うとともに地域・保護者に知らせ、児童の健康をとともに考え推進する機会とする。
- ② 体力の向上
- ・学校生活において、児童が遊び・運動などにより身体を動かすことのできる時間を十分に確保する。
 - ・体育集会や元気アップタイムにおいて、マラソンやなわとびなどの運動の機会を作るとともに、新たな運動や遊びを紹介し、児童の運動への興味・関心を高め、体力向上への取り組みの一層の充実を図る。（1校1取り組み、1学級1実践）
 - ・児童自身が自分の体力の向上に関心をもち、課題をもって運動できる場や環境を整える。
- ③ 生活指導の充実
- ・生活規律の徹底を図る。全教職員が共通ルールのもとに児童に対して共通行動をとる。（規範意識向上プログラムの実践）
 - ・全教職員での児童理解を図り、スクールカウンセラーと連携しながら、いじめ、不登校の未然防止・解消に努めるとともに、個の課題に応じた指導を推進する。
 - ・民生児童委員と教職員との連絡会（年3回）を実施し、情報交換をすることにより課題を共有し、地域と連携して子どもを見守り育てる。
- ④ 一人一人に向き合う教育の推進
- ・特別支援教育コーディネーターを中心にスクールカウンセラーや関係諸機関との連携を図りながら、教職員全体での支援体制により特別支援教育の充実を図る。
 - ・個々の児童の状況に対応できるよう、保護者と連携して個別支援計画を作成して指導に当たるとともに、スクールカウンセラー、学校特別支援員等の活用を図る。
 - ・「メンタルヘルスチェック」や「あなたの気持ち教えてね」の調査を年間2回ずつ実施し、必要に応じて面談することで、児童一人一人の気持ちの様子を知るとともに、一人一人の状況や課題に向き合う教育を推進する。
- ⑤ 安全な環境作り
- ・防犯ブザー携帯の徹底、「大田区安全安心メール」への登録率の向上と活用を図る。
 - ・登下校の安全のため、地域・保護者の協力を得て、児童を見守る力の拡大を図る。
 - ・全学年で交通安全教室を実施し、交通ルールの徹底を図る。また自転車の乗り方を重点とし自転車教室を実施する。
 - ・児童の安全を第一に考え、校内施設・設備の安全点検を毎月実施し、改善の徹底を図る。
- ⑥ 保護者・地域および関係諸機関との連携により共に子どもを見守り育てる
- ・ふれあいルームを設置し、地域の方と児童が交流できる場として活用を図る。
 - ・あじさい校区連絡会を通じて、地域の教育力を活用し、児童の健全育成を図る。